

海運の重要性を学校教育の場で
～広島商船高等専門学校と共催で海事施設等見学会を開催～

当協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、会員会社や関係団体と連携して教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、広島商船高等専門学校と共催で、大崎汽船・松浦造船所のご協力のもと、8月1日（水）に広島県竹原市において、尾道小学校教育研究会を対象に見学会を実施し、約15名の教員が参加しました。なお、本見学会は同研究会の授業研究の一環として実施したもので、見学会に先立ち7月26日（木）に、広島商船高等専門学校 清田准教授による海事産業に関する講演を行いました。

当日は、竹原港よりフェリー「ないすおおさき」に乗船後、運航中の本船操舵室や離着岸の様子を見学しました。操舵室では、舵のとり方や航海中のルール等の説明を受けながら、操船の様子を間近に見学することができました。参加者からは「航海中、目印にするものはあるのか?」「どれぐらいのスピードで航行しているのか?」等の質問がなされました。



その後、松浦造船所では、船の建造工程や完成後の進水式までの過程の説明を受けながら、造船所内を見学し、溶接や鉄板の曲げ加工の作業とともに建造中の内航船を目の当たりにし、日本の造船技術の高さ、船の大きさを体感することができました。

最後に、広島商船高等専門学校にて、停泊中の練習船「広島丸」の船内見学のほか、操船シミュレータの体験学習が行われました。練習船内では、操舵室にて海図の読み方やレーダーなどの航海機器の説明がされたとともに、機関室にてメインエンジンや発電機を見学したほか、プロペラの模型を使用して船が進む仕組み等を学ぶことができました。その後、操船シミュレータの体験学習では、参加者らは大型船による神戸港への入港や夜間航海を疑似体験することができ、人々の暮らしを支える船・海運、船員の仕事への理解を深めました。

見学会後の意見交換の場では、参加者から「勉強会・見学会を通していかに日本が海運に支えられているかを認識した」「幼い頃から海と自分たちの生活との密接な関係について教育すべき」等のコメントが寄せられ、海事産業に関する教育実践の重要性についての認識が共有されました。

当協会では、今後とも皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動を実施してまいります。

